

CASBEE® 新潟 | 評価結果 |



- 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版
- 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1. 建物概要			
建物名称 建設地 用途地域 建物用途 竣工年 敷地面積 建築面積 延床面積 階数 構造 評価の段階 評価の実施日	一般財団法人東北電気保安協会(仮称)新潟統合事業所 新潟県新潟市中央区美咲町1丁目664番707 工業地域、法22条区域 事務所, 2020年12月 予定 6,040.72 m ² 1,210.62 m ² 3,698.11 m ² 地上4F SRC造 実施設計段階評価 2014年7月8日		
2. CASBEE新潟の評価結果			
		A	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{57.2}{36.2} = 1.5$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★			
3. 新潟市の重点項目の評価			
1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全に使い続けるために	平均スコア 3.4		バリアフリー計画 Q2.1.1.3 3.0 維持管理 Q2.1.3 4.5 設備の更新性 Q2.3.3 2.8
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産を守るために	平均スコア 2.5		耐震・免震・制震・制振 Q2.2.1 3.0 信頼性 Q2.2.4 2.0
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのために	平均スコア 3.0		雨水排水負荷低減 LR3.2.3.1 3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	平均スコア 4.0		建物外皮の熱負荷抑制 LR1.1 5.0 自然エネルギー利用 LR1.2 3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	平均スコア 4.3		節水 LR2.1.1 4.0 躯体材料以外でのリサイクル材の使用 LR2.2.4 5.0 部材の再利用可能性向上への取組み LR2.2.6 4.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために	平均スコア 2.5		生物環境の保全と創出 Q3.1 2.0 敷地内温熱環境の向上 Q3.3.2 3.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の個性や魅力を活かしたまちづくりのために	平均スコア 3.5		まちなみ・景観への配慮 Q3.2 4.0 地域性への配慮、快適性の向上 Q3.3.1 3.0
4. 新潟市の重点項目の配慮事項			
自然との調和を考慮しつつ、災害処点としての機能を発揮でき、又、環境への影響を極力少なくできるよう配慮した。			

CASBEE[®]新潟

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	一般財団法人東北電気保安協会(仮称)新潟統合事業所	階数	地上4F
建設地	新潟県新潟市中央区美咲町1丁目664番707	構造	SRC造
用途地域	工業地域、法22条区域	平均居住人員	XX 人
地域区分	5地域	年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年12月 予定	評価の実施日	2014年7月8日
敷地面積	6,041 m ²	作成者	倉崎 正
建築面積	1,211 m ²	確認日	2014年7月10日
延床面積	3,698 m ²	確認者	倉崎 正



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア= 3.2

Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.2

Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.4

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 3.1

LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 3.5

LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.6

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.6

LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項		その他
総合 大規模災害に対応した拠点事務所としての機能を持たせ、津波・洪水での垂直避難に対応した建物構造及び階層。自然エネルギーの活用で耐久性や運用コストを考慮。		0
Q1 室内環境 開口部のガラスを複層にすることで、外部からの騒音対策を施した。又、Low-Eガラスを採用することで、熱の侵入を抑制し、空調効率の向上を図った。	Q2 サービス性能 天井高を高くし、開放感を高めることで、居心地・快適性を考慮した。又、バリアフリーを考慮し、将来の障害者雇用に対応できるよう計画した。	Q3 室外環境(敷地内) 周辺の緑地が建物に映り込むようにし、自然と一体になるような建物を目指した。職員や事業用の駐車スペースが多く必要なため、緑地の確保が困難であったが、その中でも僅かなスペースや植生ブロックの採用で、緑を取
LR1 エネルギー 太陽光発電機の設置で、自然エネルギーを利用と運用コスト削減に貢献する。	LR2 資源・マテリアル トイレなどの機器は節水型、断熱材は標準的な物を使用している。建築基準法に基づくF☆☆☆☆材料の使用など科学汚染物質に対して配慮している。	LR3 敷地外環境 電気による空調管理で極力二酸化炭素の発生を抑えている。又、建物の向きを細長くし、風向きに平行になるよう配置した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される